記者発表資料

平成２７年１月３０日
東 北 地 方 整 備 局

平成26年度「手づくり郷土(ふるさと)賞」に「室町時代からの伝統技術「からむし生産」伝承とからむし織姫」の地域活動が選定されました

地域づくりに取組む活動団体等の優れた地域活動を表彰する「手づくり郷土賞」は、今年度で２９回目の開催となる国土交通大臣表彰制度です（別添資料１参照）。今年度、東北地域からは**『室町時代からの伝統技術「からむし生産」伝承とからむし織姫』（昭和村からむし生産技術保存協会）**が選定されました。

この取組みは、道の駅を活用して、古来より当地に伝わる「からむし」の生産や加工技術を伝え、伝統工芸である「からむし織」の展示・販売を行っております。また、「からむし織」の体験事業を通じて、後継者育成や情報発信を図ることにより、地域間交流や観光の活性化に寄与しています。こういった取り組みが高く評価され、受賞となったものです。

今回の選定に伴う認定証授与式を、**平成２７年３月８日（日）受賞地域で開催します。**

東北地方の選定結果

【一般部門】地域の魅力や個性を創出している、社会資本及びそれと関わりがある優れた地域活動が一体となった成果

応募件名	室町時代からの伝統技術 「からむし生産」伝承とからむし織姫（別添資料２参照）
応募団体	昭和村からむし生産技術保存協会

【認定証授与式】
- 日　時：平成２７年３月８日（日）１４：００～（３０分程度）
- 場　所：道の駅「からむし織の里しょうわ」
- 住　所：福島県大沼郡昭和村大字佐倉字上ノ原１

〇取材について
- 受付は１３時３０分から行います。
- 取材にあたっては、担当者の指示に従って下さい。

※授与式終了後は、現地視察（３０分程度）を予定しております。
※国土交通本省においても同様に記者発表しております。
〈発表記者会〉宮城県政記者会・東北電力記者会・東北専門記者会・郡山記者クラブ
会津若松市記者クラブ

問い合わせ先
国土交通省　東北地方整備局　代表　０２２－２２５－２１７１
企画部 企画課　　課長補佐　齋藤(さいとう)　克浩(かつひろ)　（内線３１５６）

資料1

平成26年度 手づくり郷土賞

目　的

全国各地において、地域固有の自然や歴史、伝統、文化や地場産業等を貴重な地域資源として再認識し積極的に利活用した、魅力ある地域づくりに成功している事例が数多く見受けられます。

このように、地域の魅力や個性を創出している良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を一体の成果として発掘し、「手づくり郷土賞」として表彰するとともに、好事例として広く紹介することにより、各地で個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が一層推進されることを目指しています。

部　門

募集対象

手づくり郷土賞（一般部門）	手づくり郷土賞（大賞部門）
地域の魅力や個性を創出している、社会資本及びそれと関わりがある優れた地域活動が一体となった成果	これまでに「手づくり郷土賞」を受賞した社会資本又は社会資本と関わりのある活動 を含む成果

選定のポイント

手づくり郷土賞の選考は、以下の視点に着目して行われます。

①社会資本の整備・維持管理・利活用にあたっての創意・工夫
（地域特性を踏まえた整備・維持管理上の工夫、地域資源としての活用・育成 等）

②地域活動における創意・工夫、取組の独創性
（新しい発想、住民自ら考え工夫を凝らした取組 等）

③地域づくりへの成果及び波及効果
（地域への思いに富んだ取組、地域づくりの枠を越えた効果 等）

④今後の活動の継続性・発展性
（住民が長く活動を続けられる仕組み、周囲を広く巻き込む工夫 等）

⑤他の参考となるような先進性・先導性

⑥その他（上記以外の特に優れた内容）

⑦社会資本の地域への定着状況
（地域のシンボルとして広く認識されている、多くの地域住民が日常的に活用 等）

⑧活動の継続状況
（規模を広げながら着実に継続している 等）

⑨活動の発展状況
（新たな取組を創出している、他地域へ波及している 等）

応募団体

社会資本を有効活用し地域づくり等に取り組む活動団体が単体、又は社会資本を管理する地方公共団体（都道府県、市区町村）との共同で応募することができます。

選定委員会

委員長：	齋藤　潮	東京工業大学大学院社会理工学研究科　教授
	荻原　礼子	結 まちづくり計画室　代表・まちづくりプランナー
	佐々木　葉	早稲田大学創造理工学部　教授
	鈴木　伸治	横浜市立大学国際総合科学部　教授
	関　幸子	株式会社ローカルファースト　代表取締役
	田中　里沙	株式会社宣伝会議　取締役　編集室長
	森反　章夫	東京経済大学現代法学部　教授／災害復興研究所　所長
	瀧口　敬二	国土交通省総合政策局長

※ 詳細については、国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」ホームページをご覧ください。
（http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/tedukuri/index.html）

資 料 2

《一般部門》　昭和村からむし生産技術保存協会
室町時代からの伝統技術
「からむし生産」伝承とからむし織姫

昭和村の「からむし」

「からむし」はイラクサ科の多年生植物で、古来より織布等の原料として用いられておりました。福島県昭和村は、本州唯一のからむし生産地で、約６００年前より栽培が行われてきました。からむしの原麻を加工する「からむし織」は、福島県の重要無形文化財に指定されており、貴重な文化遺産として位置付けられております。昭和村では、からむし生産とからむし織の後継者育成のため、平成６年より「からむし織姫体験制度」事業を行っております。これは、５月から翌年３月までの１１ヶ月間、「からむし織姫」として、「からむし栽培」から「からむし織」まで体験していただくものです。この事業が始まる際に建設された「からむし織の里」は、昭和村で最も重要な交流拠点として、その役割を担っております。



からむしの刈り取り状況



「からむし織」を体験する様子



昭和村の一大交流拠点である「からむし織の里」

活動の広がりについて

からむし生産とからむし織に携わっているのは、主に高齢の方々で、以前から後継者不足に悩まされておりました。からむし織姫体験制度事業により、織姫と多くの村民が交流を深めることで地域活性化となり、閉塞的になっていた高齢の方々に生きがいが生まれました。また、体験生として昭和村を訪れた女性の中から、体験終了後も昭和村に定住し、からむし織の後継者となった方もいらっしゃいます。

平成２６年４月には、からむし織の里が、道の駅「からむし織の里しょうわ」として登録され、同年８月に、その開所式が行われました。今後は、道の駅を活用した地域の観光情報発信等に更なる期待が寄せられております。



からむしの皮はぎ作業



乾燥させた、からむしの結束作業



織姫が自然観察体験を行う様子



織姫とからむしに携わる方々



からむし織の加工品



道の駅開所式の様子